

令和２年度 特別の教育課程（書道科）の実施状況等について

春日井市立西尾小学校

1. 本校の教育目標

社会の変化に、主体的に対応して生き抜く資質を養うために、自ら学ぶ態度の育成と個性を伸ばす教育を推進し、心豊かでたくましく生きる人間の形成をめざす。

めざす人間像

よく学び よく働く子 （知）

心豊かで 思いやりのある子 （徳）

からだをきたえ ねばり強く がんばる子 （体）

2. 特別の教育課程の内容

（１）特別の教育課程の概要

小学校第１～６学年において新教科「書道科」を新設する。第１学年は、国語を３０時間、生活科を４時間削減して新教科に充て、第２学年は、国語を３０時間、生活科を５時間削減して新教科に充てる。第３～６学年は、国語を３０時間、総合的な学習の時間を５時間削減して新教科に充てる。「書道科」において、書を書くという具体的な活動を通し、友だちと触れ合ったり、家庭生活での話題をもたらしたり、地域の人々とのかかわりを生んだりする。そこから、集団の中での自分の役割や行動の仕方を考えさせるとともに、「書のまち」に生きるよさと愛着をもたせる。

また、「書道」という伝統文化や「書のまち」を発信する地域の特性を探究する活動にも取り組むことを通して、表現力の向上と向上心の伸長を図るとともに、日本古来の文化や自分の生活する地域を振り返りながら自己の生き方をも考えさせる。

（２）特例の適用期間

平成２３年４月１日～令和１１年３月３１日

（３）実施学年

１年、２年、３年、４年、５年、６年

（４）地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本市は、三蹟のひとり小野道風の生誕の地と言われており、全国的にも数少ない書専門の美術館小野道風記念館を有し、「書のまち春日井」として、書道の普及発展に力を入れている。特に、小野小学校では、愛知県下児童・生徒席上揮毫大会が昭和１１年から戦争中も途切れることなく開催され、第１回からの優秀作品を保管するなど、愛知県の書道教育の中心的な役割を果たしている。

書道は、「文字を正しく整えて書く」ことにおいて、従前から行われてきた国語科における書写

の目的に共通するが、その文化・芸術性及び精神性においては、書写とは一線を引くものである。現在、児童の「表現力の向上」「心の教育の充実」などが重要な教育課題であると認識している。それらを解決するため、前述した地域性や学校の特色、さらには書道の特性を活かした「書道科」を新設し、表現力の向上を目指すとともに、よりよい作品をつくりあげようとする向上心、つくりあげた達成感から得られる自尊感情、相互評価などの他者との関わりから得られる親切心や規範意識等、特に心の充実を図りたいと考える。また、同時に郷土愛についても、書道を通して「書のまち春日井」に根ざして生活している自覚を促し、育てていく。

(5) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

2に記載する特別の教育課程について、教育基本法（平成18年法律第120号）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）に規定する小学校等の教育の目標に関する規定等に照らして適切であることを、春日井市教育委員会において確認済。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する評価

(1) 評価の観点

- ① 特別の教育課程の編成・実施により、学校の教育目標が十全に達成されているか
- ② 教育課程全体としてバランスのとれた教育活動が実施され、学校教育法に示す学校教育の目標が十全に達成されているか

(2) 自己評価

児 童	・講師の先生が字を書くときのポイントをわかりやすく教えてくれるので、自分で書くときも気をつけて書ける。 ・一人ずつ書いた字を見ていいところをほめてくれるのでやる気が出る。
教 員	・「書のまち」らしい活動ができ、講師の先生からの指導も、いい経験ができていと思う。 ・篆刻や書き初めなど、「書のまち春日井」らしい取組がなされている
保護者	・字を書くときの姿勢も意識するようになり、文字を丁寧に書こうとする意識が出てきた。実際、形の整った文字を書けるようになってきた。 ・校内に、作品が常設的に掲示されており、子どもが書いた字を見て家庭で褒めたり話題にしたりすることで、次への意欲につながっているようだ。

(3) 学校関係者評価

・子どもたちの字が落ち着いている。学校全体の雰囲気も落ち着いており、普段の生活も落ち着いて行動できていることが想像できる。 ・集中して字を書いているときは、とても静かで落ち着いた雰囲気を作り出している。子どもたちの成長を感じるとともに、学習へ良い影響を与えていると思う。
--

(4) 課題

担当者と書道科講師の連絡調整を行う時間を確保する必要がある。
